

令和元年度 学校経営報告

府中市立府中第一小学校長 関 修一

1. 令和元年度 学校経営の成果と課題

① 学力向上を図る授業改善

週の指導計画をすべての教員が提出し、ねらいを明確にした授業ができるようになってきている。特に、本年度の校内研究の国語では、資質・能力の育成を図るような授業を展開することができた。

課題としては、自己調整力の育成を目指し、振り返りの時間を設定しているが、十分な時間の確保ができていないことである。

② 見通しをもった組織運営

教務主任が発行する週予定を意識して行動することで、チーム学校として運営することができている。学年主任を中心にして学年をベースとして円滑な学校運営ができている。来年度以降も、継続していく。

③ 小中一貫教育

府中一中の校長のリーダーシップのもと、同じ目標にむかって連携することができている。今年度は一中の人権教育の発表会に全職員で参加することで人権意識の醸成を図ることができた。また、一中・一小・九小が合同で「教育を語る会」実施できたのも大きな成果である。

④ 校経営支援予算

特別に支援を必要とする児童やクラスに対応することで、落ち着いて授業を進めることができた。本校としては、効果的に活用することができたと思う。昨年度に比べ、特別な支援が必要な児童が増加している傾向があるので今後、予算の増額をお願いしたいと考えている。現在、各校で学校支援員を探しているが、なかなか見つけられない実態がある。人材バンク等を設置していただけるとありがたい。

⑤ 副校長等校務改善支援事業の活用

副校長等支援事業は、人材にも恵まれ、非常に有効に活用することができた。今年度配置された副校長と協力しながら学校運営を進めている。今年度、効率的に運営できているため副校長の本来業務である学校経営上の課題や教員の育成に時間をかけることができた。

⑥ 校内研究の活性化

昨年度に引き続き校内研究の教科を国語科として、全校で研究授業を行った。今年度は、文学的教材に絞って研究を進めたため、授業後の協議会が活発化しそれぞれの教員の学びにつながってきている。また、学年の系統性についても学ぶことができた。

⑦ 教員の働き方改革に関する取組

タイムレコーダーの活用することで、教員自身が自分の在校時間を意識するようになり、メリハリをつけた勤務ができるようになりつつある。今後、OJTを通して、効率的な事務作業ができるようにしていく。

2. 令和2年度の取り組みと具体的な方策

(1) 学力向上

①理科・算数科を校内研究に位置付け授業改善に取り組む

令和2年度から完全実施の指導要領の趣旨を理解するため、来年度は、問題解決学習を中心に低学年では算数科を中・高学年では理科を研究協として、新指導要領に示されている「見方・考え方を通して、資質・能力を育成する」の授業レベルにおける実現を図っていく。

②外国語活動の充実

平成30年度に英語専科の教員が配置され、小学校における専科教員の指導法について研究してきた。来年度からは新指導要領完全実施のため5・6年は外国語・3・4年は外国語活動になる。特に本校は、外国語専科が配置されるので、5・6年の評価について明らかにしていく。

(2) 人材育成

①若手研修の実力向上

学年会で指導について足並みをそろえるとともに、基本的な授業の流れや一単位時間の目標を明確にするなど授業力を高める取り組みを進める。企画委員会と同時にOJT研修会を実施し、効率的な働き方ができるようにする。

②主任教諭の育成(継続)

ミドルリーダーとなる主任教諭の育成を計画的に進める。

校務分掌の中で、学年主任や各所委員会・部会の主任に配置し、その分掌の運営責任者として分掌組織の進行管理や運営力を育成する。

(3) 小中連携(継続)

管理職・小中連携コーディネーターを中心に小中連携を推進する。各学期の連携授業の前後に小中連携連絡会を開催し、行動連携からカリキュラム連携に広げていけるようにする。

(4) ICT教育の充実

令和元年度の2学期から導入された大型テレビや児童用タブレットを活用して授業改善を行ったり、プログラミング教育に取り組んだりしていく。